友誼團體との提携

在郷軍人會と、青年團とは、密接なる關係にあるは論を俟たず、常に提携して親睦を圖り、相共に會の發展のために指導鞭韃すべきなり。

斯かる趣意のもとに、在郷軍人會とは常に合同にて事業をなし、或は見學旅行、警備、招魂祭、忠魂碑建設、運動競技會等を合同にて行ひ、相互の關係は良く融和圓滿にして、在郷軍人會員にして楠學團團員たる者、其の大半を占むる現況なれば、益々提携し、共存共榮の精神により今後も一層連絡を密に、鞭韃し向上發展を期す。

處女會は女子青年團にして、又最も密接なる關係にあり、青年團がよくこの處女會を指導し、後援せざれば健全なる發達を遂ぐべきにあらず、然れども處女會創立して未だ日淺く、從ひて完全なる提携の實を擧ぐるに至らざるも、團員がよくこの處女會を理解し、後援をなすの日も近かるべく、處女會も亦よく青年團體との提携に自覺せば、漸次共同的精神により、訓練と統制ある各種の會合を行ひて提携親睦國民の中堅たる責務を果さん事を期す。

奉迎送謹記

大正三年八月九日、畏くも伏見宮博義王殿下には御微行にて金剛山及び千早城趾に御登山あらせらる、本團員は登山路の修理清潔をなし、奉迎申上ぬ。尊き御身を以て、楠公が建武の昔勤王の大旗を翻し、賊軍を撲滅せし忠誠を嘉し給ひ、御親しく奮戰の地を訪はせ給ふ、畏き極みなり、千早城趾に御記念の御手植を遊ばされ、後一般の奉迎に會釋を給ひつゝ田中善永氏邸に入らせられ御一泊遊ばさる、依つて團員一同は團長の指揮のもとに御警衛に任じたり。

翌十日團員及び一般村民の奉迎の内に御會釋を給ひつゝ御還御遊ばされぬ、我等の無上の光榮として茲に謹記し奉る。

大正六年五月十一日、畏くも　聖上陛下が未だ皇太子殿下にあらせられたる時、隨員を從へさせられ御微行にて赤阪城趾觀心寺等の楠公の史蹟を御巡遊あそばされぬ、我が楠學團に於ては團長引率のもとに奉迎送區域なる東阪村に於て千早村青年會と合併し、御通過を御待ち申上たり。時に殿下には赤阪城趾の御見學を終へさせ給ひ、腕車に召され御機嫁殊の外御麗しく畏くも御會釋を給ひつゝ御通過遊ばされぬ。

斯かる僻遠の地に、玉歩を印し給ふこそ畏くも畏き極みにして、我等が御間近く御英姿を拜し奉るを得しは何たる感激ぞ何たる光榮ぞ、路傍の心なき一草一石皆光榮にうたれざるはなく、團員一同感激の涙にむせびつゝ解散せり。尚當日觀心寺にて千早村青年會員の書畫を台覽に供するに當り本團員仲村晋治君が代表としてこの光榮に浴せり。

大正九年五月二十五日、畏くも　秩父宮殿下には御微行にてさきに　皇太子殿下が御巡遊遊ばされし楠公の史蹟の地を訪はせ給ふ、我等さきに　伏見宮博義王殿下を奉迎し奉り再び　皇太子殿下を拜し、今亦　秩父宮殿下を迎へ奉る。光榮極りていふべき言葉なし、これ楠公が誠忠一日の如く以て能く皇基を維持し奉り、千載生くるが如く人をして其の忠烈に泣かしめ、人心を激勵し、建武中興の大業を翼賛し奉りし大楠公一族の忠義を嘉し給ふに依り、竹の園生の御身を以て御巡拜遊ばさるゝと拜察す、秩父宮殿下を迎へ奉りし日は恰も楠公の祭典たりし事は、地下の楠公の靈も皇恩に感泣せられし事と拜察す。

畏くも殿下には御徒歩にて一同奉迎の内に擧手の禮を賜ひつゝ御建脚に亘らせ給ふ殿下には御身輕に御通過遊ばさる。茲に奉迎送を終へて光榮に打振ひつゝ歸路に就くに當り謹みて茲に記す。

昭和三年四月八日、畏くも　久邇宮邦彦王殿下同妃殿下には大和路の御巡遊を終へさせ給ひ、親しく南朝の史蹟と楠

公誠忠の趾を尋ね給ふ畏き御思召にて金枝玉葉の御身を以て難路を山駕に召され河南の山河を隈なく御巡遊ばさる、誠に河南の民草山河無上の光榮と云ふべし、而して本團に於ては奉迎の誠心を盡し、數日前より險路を修理し或は千早城趾を清め殿下の御着きを今か〳〵と御待ち申上ぐる。

程もなく海拔四千尺金剛山頂崇忠館に御一泊遊ばされし兩殿下には山駕に召されて山田宮家事務官、大沼御附武官、侍女二名、田邊大阪府知事、菱刈第四師團長、村井警察部長、石井警務課長、山縣官房主事、東京美術學校長、聖德太子奉讃會員以下を從へさせられ富田林警察署長の御先導にて山路御疲勞もあらせられず、御機嫌麗しく午前九時三十分城趾に御到着あり、本村長名譽職の奉迎を受けさせられ、テント張りの御休憩所に御少憩遊ばさる。麗から春光を浴びて展開されし河內和泉の山河を御眺望あらせられ、本村名譽職に謁を賜ふ、本團長亦この光榮に浴す。同所にて千早村より献上の凍豆腐を御嘉納あらせられ、元弘三年の役に於ける千早城の城勢、楠氏の軍略等を步兵第八聯隊の丸山少佐の御前講演を聽し召され、終つて千早神社に御參拜遊ばさる、それより御徒步にて城趾にて奉迎せる青年團員、在鄕軍人會員、靑訓生徒、小學校生徒、婦女會員其他一般村民の心からなる奉迎に御會釋を給ひつゝ午前十一時御下山、一同御見送りの內に自動車に召され、觀心寺に向はせられたり、こゝにつゝがなく奉迎送を終へこの光榮を永く記念し、奉迎送の大要を謹記し奉る。

昭和七年十月二日畏くも　高松宮殿下に於かせられては海軍砲術學校學生の御資格を以て千早城趾並に金剛山に御登山遊ばさる、本團に於ては第一班と協同にて警備並に諸般の御接待の任に當る、辱なくも御側近にて至極平民的に亘らせらるゝ殿下を奉拜する事を得たるは何たる光榮ぞや、本團に於て養魚中の雨ノ魚は當日の御晝食に在鄕軍人分會員の手を經て御食膳に上りしと承はりたるこそ誠に光榮にして此に銘記する處なり。

千早千早城趾に於て御少憩遊ばされ、遙かに河內攝津の平野を御展望遊ばさる、分會員の差上る番茶を御氣輕に召上り金剛山に御登山遊ばさる、午後一時半御下山の殿下を奉送して團員一同解散せり。

昭和七年十一月一日、　久邇若宮殿下には御微行にて千早城趾に御登山遊ばさる、先に　高松宮殿下を奉迎し今又此の光榮に浴す、感激更に新たにして團員一同御警備に任ず、千早城趾に御記念の松を御手植遊ばされ、千早神社に御參拜ありて後御休憩所なる茶園壇に暫時御休憩遊ばさる、願ればこの千早城趾に御成遊ばされしが定めし殿下には當時の御事を聞召され御感慨殊に御深かりしと拜察し奉る。

暫時御休憩の後隨員を從へさせられ御下山の殿下を靜かに奉送申上げて一同解散せり。

畏くも　今上陛下　皇太子殿下に在はせし大正十年三月三日海外御巡遊の途に上らせ給ひし御壯擧は、日本建國以來二千五百八十一年皇紀連綿として既に百二十代を數ふると雖も此の間　天皇若しくは皇嗣にして、外土を御巡遊あらせ給ひし御方は曾て其の例なかりしなり、日本帝國六千萬の臣民誰れかは此の空前の御盛事を壽ぎまつり且つ等しく畏敬措く能はざる所とす。殊に我が靑年團に取りては爰に一新紀元を劃すべき最も意義深き榮ある新機運に際會せしのみならず日出度く御歸朝にあたり、全國靑年團代表者の橫濱埠頭に奉迎し奉り、又賢所御參拜の砌り宮城內に於て殿下の御英姿に咫尺し奉りたる等は實に無上の光榮にして吾人が等しく欣快措く能はざる所なり。殊に我が團員仲村音治君南河內郡聯合靑年團代表とし此の榮を得たるものなれば意義深く感激し奉る次第なり。

申すも畏き事乍ら曩に全國靑年團に令旨を賜はり靑年團の新生面を展くべき方針を御訓示あらせ給ひし　殿下這般の御外遊こそは誠に以て大正維新史上に特筆すべきものなると共にやがて靑年團の發達史に光彩を睦離たらしめらる事固より疑を入れざる所と思推し奉る、今や御大典記念として我が楠學團史の編纂するに及び當時奉迎の光榮を本團に報告された

る團員仲村晋治氏の日誌を上梓し後顧に記念し將來青年處女の精神修養に幾分なりと裨益する所あらしめば之にすぎたる幸なしと云ふべし。

大正十年九月十五日

團長　福田敬治郎殿

團員　仲村晋治

東宮殿下奉迎記報告

八月三十一日　午前十時大阪府廳ニ參集池松大阪府知事ヨリ奉迎ニ關スル訓辭ヲ受ケ十一時終了午后六時三十分迄ニ梅田驛前化粧品室休憩所ニ集合ノ約ニテ退廳定刻全員二十六名集合點呼ノ上大阪府青年團主事成田軍平氏引率サレ同六時五十七分發萬歳裡ニ上京セリ。

第一日（木曜）

九月一日、午前十時築地西本願寺着。早や御堂は滿員にて、內務、文部兩省の係員が圖面に照合し大廣間を府縣別に疊割にて劃し、所屬の位置定まれば定刻午後三時一應人員點呼といふに一同晴れの御寺院廣場に整列す。

點呼終了後配布物とて一人前宛大の封筒を渡さる。四日間の日程明細書、注意事項、埠頭奉迎圖、乘車時間割、電車案內等細々至れり盡せりの印刷物及四日間左胸部に佩用すべき「奉迎—全國青年團」と記せし徽章在中せり。間もなく奉迎順序並に心得等引率者に於て聽取しそれ〴〵傳へしむる事とて引率者の集會あり、其間に吾々の健康診斷が行はれしも緊張せる時機なれば病あるものにあらず長途の汽車旅行で三、四人胃腸を痛めし程にて明日からの光榮ある奉迎には一人として差收あるものなし。

廣き御堂や對面所には黑い疊の緣が縣境で一劃し、內にバスケットやカバンが置かれ、圓陣を作つて引率者から說明を聞き、故郷への通信を書し私設ポストが時々廻れば瞬く間に一杯となり、一寸の間に切手端書が賣切れの盛況なり、床に就くも話に花が咲き寢つかれざるも何處とも知れず鼾の聲も聞へて夜は更けたり。

第二日（金曜）

九月二日、どんよりと曇りて明く、此の日午前は休養、各所思ひ〳〵の催しにて我々近畿、東海、中國の第一支部にては午前七時より懇談會を開き、各自郷土の紹介玉串捧呈の內協議をなし、終りて東京朝日新聞社見學なし、正午辭社し午後二時原宿驛に着。明治神宮の參拜は今日の午後三時の豫定なり。二時半田子內務省社會局長を先頭に一同打揃ひ表參道大鳥居に到着、各支部毎に神宮の修祓を受け拜殿前に參進整列此處にて各府縣毎に豫ねて選ばれたる代表者四十七名中より更に一名玉串を捧ぐべき總代を定むる爲、嚴に神前にて抽籤、新潟縣明道彖衛氏が其の光榮を擔へり。二時五十分田子局長大野書記官は拜殿左右に文部內務の役員及び引率者團員總代は拜殿下、百疊敷中央部に一般團員は各支部毎に左より我等第一第二第三支部と並び何れも襟を正して控ふる中に九條宮司は莊嚴裡に祝詞を奏し、次で總代明道彖衛氏玉串を奉奠し嚴かなる喇叭の吹奏裡に全員恭しく最敬禮をなし、同三時二十分全く式を終り山手線にてお茶の水驛に向ふ。

五時半より女子高等師範の大講堂にて田子社會局長、赤司普通學務局長の挨拶があり續いて七時より皇太子殿下御渡歐御狀況三皇子殿下の葉山御用邸に於ける御近情の活動寫眞がありしも、活動寫眞直前大阪毎日の加藤直士氏の東宮殿下に扈從し奉る感激談あり、幾多の新しき例を引述さる毎に團員の意氣頓に高潮し、拍手の音大講堂も割れんばかりなり。八時四十分映寫終り千三百人の大團體が一時に退出せば電車は滿員鈴成りとなり、恰度此頃より空模樣は刻々險惡の狀を呈し三十分！一時間！雨は次第に激しきを增し、御堂の大なる雨桶は瀧の如く溢れ一同明日の天氣を氣遣ひつゝ就寢す。

第三日（土曜）

九月三日、今日は大會の主目的たる東宮殿下奉迎の日なり。午前六時五分と六時十五分の東京發横濱行汽車は團員輸送の特別列車なれば四時起床心身を淨め朝食を濟ませば夜來の土砂降りは跡もなく晴れ渡り、御堂前の鳩の群まで今日の佳き日を壽ほぐが如く眞に是れ東宮日和！横濱埠頭の奉迎白地に赤く「奉迎—全國青年團」と染め出した團旗を先頭に縣別に名を銘せる小旗を翳し全國青年團代表者一千三百餘名の大團體皎々たる喇叭に歩調整然と横濱埠頭へ繰込みし時は正に七時四十分なり。夜來の豪雨に埃は全く清められし上に朝よりの入念なる清掃に稅關より棧橋まで一點の塵だも止めず其の清々しき大地を奉迎者の誰人よりも先づ踏みしめ所定の位置に着。惟へは今日殿下は半歲の長きにわたり御外遊遊はされ日の本の御地を最初に踐ませ給ふべき御心中申すも畏し。横濱棧橋より玉歩を迎にせられ御召列車に乘御遊はさるゝまでの間其左側一帶が我青年團代表者のために定められたる奉迎の位置なれば、團員は其處に八列となり、奉迎申上ぐれば殿下には御久方振に邦土に御歸還遊はされ國民至誠の奉迎申上ぐる最初の奉迎其れは我が全國青年團を代表する一千三百餘名の若者、　殿下の御思召御拜察申上ぐるも畏き極なり。此の光榮ある樣を目のあたり拜し奉る團員の胸中は感激感泣そのものゝ如く、一種言ひ知れざる靈感に瞼をうるほし、しはし頭も上がらざりし氣持にて今日の殊遇を心より神に喜べり。

八時十分！全部が所定の位置に着きし頃突如「氣を付け」の喇叭が廣き埠頭に響き渡る、御迎への御召列車が着きし合圖なり、原首相以下、各國務大臣、德川、奥兩院議長、東郷、川村、奥、島村、上原等の元帥大將が欣然として下り立ち次で御同乘の　淳宮、高松宮兩皇子殿下を始め奉り各宮殿下何れも御機嫌よく下り立たせ給ふ中に分けて兩皇子殿下には半歲振りに御兄宮殿下に御對顏の御喜悅御双頰に溢れて居らせらるゝ樣御見受け申上ぐるもさぞかしと拜察し奉る。見よ！八千の同胞此の日の横濱埠頭の神々しき光榮は莊嚴、美觀壯觀其の言なく稅關四號五號上屋一帶を始め各所には萬國旗を蜘蛛の巢の如く張渡し、棧橋正面波止場には天を摩す大綠門を設け棧橋の欄干は悉く皆紅白の布にて美しく卷飾し、そしてその眼を港内に移せばそこには山座長官の率ゐる榛名、朝日を始め大小十八の艦艇滿艦飾美々しく威風堂々海を壓し百千の船舶も亦夫々飾り立て御召艦の御着を今か今かと御待ち申上ぐ。

午前八時轟然爆音空に響くかと見れば奉迎花火の第一發であつた。折柄十數臺の飛行機は旭に鮮かな影を浴しつゝ奉迎者の頭上を高く低く縱横に舞ふ此の時海の彼方遙に二條の黑煙見え、おのづと動搖めく中に八時四十分榛名先づ皇禮砲の一發を碧空に轟かせば續いて各艦共に一發亦一發！轟きは靜にその數を重ぬ、

陸に海に空に奉迎の色が濃くなるにつれ埠頭近く一帶は次第に緊張し靜けさ滿ちて一層嚴肅な氣分を充溢し奉迎の群集は刻々に其の數を增し、寸地も餘さず隙間もなく居並ぶかと見れば我等團員の前方丁度外國使臣の次に約二百名内外の在留夾人ボーイスカウトの十七八歲の青年より十二三歲の少年に至る一隊制服制帽にて堵列し、彼我欣喜に輝く顏と顏、おゝ然り！御外遊の至る處各國上下をして徹底的に「大日本帝國」を理解せしめ給ひ畏れ多き事乍ら御知識の上に於かれても御思想の上に於かれても一轉機を劃し給ふ世界的に崇敬彌高き英邁俊明の殿下の御英姿を迎へ奉る歡喜のみならず更に廣く大きく其處に國境人種の別なき大觀念の歡喜に非ざれば何ぞや……。

時は刻々に移り九時全團員に一本宛日の丸の小旗が與へられ、今度始めて許されし所の心からなる萬歲を叫はんとする折柄、御召艦香取は威風堂々港に入り、此處に鵬程二萬三千海里の榮えある長航を終へ其の最後の錨を下す、暫くして時計が十時五分を指せば遙か遠くの岸壁に萬歲の聲聞ゆ、　殿下御召艇へ御移乘せられしなり。萬歲の聲は岸壁を傳ひて次第に近づくにつれ其聲益々高し。

十時三十分！棧橋に雪白の海軍服に短劍を召され、雄々敷き海軍服の御姿こそ、おゝげにこれ吾等の　殿下の御英姿

ならずや。奉迎の列は自ら正しく御召列車に近く海軍々樂隊よりの君が代が嚴肅に響き渡れば殿下には鈴木稅關長の御先導にて靜かに玉歩を御召列車へと運はせらる。奉迎者は一入緊張して涙ぐましき迄の緊張を見せ殿下には御英姿颯爽一々御叮嚀なる擧手の禮を給ひつゝ御通り遊はさる、奉迎の至誠天眞の人間味が、どつと萬歳の聲を叫ばれた。日の丸の小旗は縱横に振られ萬歳の雄叫びは天地を震撼し耳を裂く。

殿下には御身長は五尺五寸餘りあらせられ何處から御見上げ奉るも　明治天皇御壯年時代御儘の御樣子に拜せられ御聰明其物を物語つて居る凉しい明らかな御眼さし――目の邊り御英姿に接し奉りては崇敬感謝感激極まる所なし。

斯の如き崇敬偉大なる御人格の青年　皇太子殿下を戴き奉る吾等三百萬の日本青年のいかに大なる誇りならん。又いかに心强く感ぜらるゝ事ならん。

十時三十分！御召列車は奏樂萬歳の雄叫び皇禮砲の轟く裡に轆轤の軋も緩く警笛の音鳴り響きて帝都へと動き初め伸び上り車の後を目送し奉れば一陣の凉風面をなで遙かに空はクッキリと晴れ渡り紺碧の遠く〳〵帝都の空に續く如く御車の音は次第に遠さかるにつれ萬歳の聲は次より次へと送られ、神奈川！鶴見！川崎！そして東京まで續く事ならん。

奉迎終つて横濱社會館に到り晝食を濟まし、思ひ思ひに汽車で歸京、午後は自由散歩各府縣毎に一團となり盛觀を極めし東京市の奉迎振を見廻り東宮御所へ！日比谷！へと自由行動に餘念なかりき。

第四日（日曜）

九月四日、此日一同特に宮城拜觀を差許され、未明各宿舍を出で七時宮城乾門前に集合し、日光に行啓遊ばさるゝ東宮殿下奉送の爲賢所裏手の道灌門前に全國各大學專門學校學生代表者、在鄕軍人團と共に兩側に整列、賢所に御參拜遊ばされし　東宮殿下には九時半陸軍歩兵少佐の通常禮裝にて供奉員を隨へさせられ、團員堵列敬禮前僅か數歩の處を擧手の禮を賜ひつゝ靜かに玉歩を運ばさる。昨日は横濱に御英姿を拜し奉り、今亦此處に謁を賜ひ我等團員の兩眼に何れも感激と感謝の涙に暫し茫然たらざるを得ざりき、賢所衛兵所前より御馬車にて御退出遊ばされし後宮城内の拜觀を許され順次拜觀し最後に賢所門前に整列三殿に參拜再び乾門に出でお茶の水女子高等師範の講演場に向ふ、午後一時から山本海軍大佐の皇太子殿下の御渡歐に關する二時間に亘る詳細なる話あり次で内務大臣床次竹治郎閣下の「東宮殿下を奉迎して青年に望む！」文部大臣中橋德五郎閣下の「全國青年團代表者に望む！」の有益なる訓話あり後小橋内務次官の挨拶ありて光榮たりし今次の奉迎も午後六時恙なく終り夫々宿舍に歸り歸鄕の準備を整ひ相俱に此の光榮を鄕黨に傳へ此榮譽を分たんものと親しき袂を分ちぬ。

この記憶すべき奉迎に際し唯感激と自重の觀念に滿たされたる事を力說し、將來國家の中堅となり皇室中心主義を取り益々吾國發達を圖るべき吾等青年には近々　殿下を全國青年團名譽總裁として奉戴の光榮に浴し益々自重奮勵青年の面目を計らざるべからず。（大正十年九月十日記）

御親閲感想錄

大字千早青年訓練所生代表者

畏くも一天萬乘の大君が大阪城東練兵場に於て二府五縣の學生青訓青年女子の諸團體の一大御親閲を行はせられたる昭和四年六月五日は私等にとつて終生忘れる事の出來ざる嬉しき日なりしなり。午前十一時頃練兵場入口に達せるも、十幾萬の若人群集し、すべて光榮の歡喜に滿ち滿ちたるを覺え、吾等の胸は高鳴り飛び立つ許りの喜びは溢れぬ、さりながら其處に言ひ知れざる暗影あるを如何せん。

此の度の御親閲こそ我等青年の發展に御留意遊ばされての御事にして、誠に畏さ極みなり、さり乍ら大君の御聖旨に答

へ奉るに足り得る素質充分なりや否やを考ふる時……日頃の怠惰に充實せざる吾等が今日おそらく數時間を出でざるに大君の御前に劣き術の露出せられん事を思ふ時……恐懼にたへざる所あり。

吾等は只々天祐に依り、その光榮の時を無事に過すべく衷心より神に祈りしなり。吾等の憂慮も何のその時は刻々に進み、忽ち場内を搖がせて一發の號砲、臨御の報知と共に精神の緊張を來し、雜念去りて頭は全く空虛となり、名狀し難き嚴肅なる氣持となれり。不可思議なり只場内の空氣が斯くさせしに非ず。私等自身が努力せしに非ず、全く不可思議其物の大なる力のみかくせしなり。今にして吾等は大君の御偉大なる御聖德の程を深く〳〵感じ奉るなり。

御召自動車の音が幽かに流れて尾を引き定所にハタと止まれば、玉座に着御遊ばされしならん。軍樂隊の莊重なる君が代の曲と共に一同捧銃の禮を行ひ、續いて勇ましき行進曲と共に今日を晴と磨きし銃を擔ひ堂々たる行進は開始さる。歩一歩異常なる精神の緊張に、足も常と異りとやせんかくやせんと思ふにつけ、興奮せる吾等の神經は如何にしても安定を缺き勝ちとなり、精神を落着くるには餘りにも偉大なる雰圍氣なりしなり。此の雰圍氣の中にある吾等、此の千載一遇の御盛事に參加する事の出來得た吾等は唯感激の外なし。

雨は次第に强くなり、少しづゝ行進せる關係上甚だ待ち遠しく吾等は「頭右」の號令も聞えざる爲只所旗の敬禮を今かと待つ中一齊に所旗の敬禮、すはこそと「頭右」吾等の胸は遽かに高鳴るを覺え、吾等は始めて玉顏を拜し奉れり。

玉座に不動の姿勢にて立御あらせられる御姿こそ畏くも擧手の禮を遊はされ給ふを拜すにつけ吾等の手足は感激に震へをやまず、頭髮に至るまで感電せる如く感ず。築土の誠に質素な玉座にて軍服に大勳位の略章を御附け遊ばされ、此の降雨にも拘はらず御防水衣をも召されず御親閲なし下さる。何たる畏れ多きことなんや、吾等は　陛下を去ること十數間卑しき身を以てかくもおそば近く拜し奉りし吾等は感激に滿ち言はん方なし。御嚴かなる龍顏、不動の御姿勢を拜し奉つた時吾等の胸に來る靈感は吾等の心に忠勇無双の氣となり、其の身は微力たりとも御國の爲に陛下の御爲に必ずそひ奉らざるべからざる覺悟深く〳〵銘肝せり。

御親閲式も恙なく終らせられ熱血溢るゝ萬歳の聲を御送りせる十幾萬の若人こそは大君にその心情の程を御誓ひ申しあぐる誠を現はしたものに外ならざりき。

終り

長くも　天皇陛下親しく民情を軫さんが爲昭和四年六月輦を大阪の地に駐め給ふ。同五日大阪城東練兵場に於て關西地方諸團體を御親閲あらせらる。本團員池田嘉一、松本武夫、井之本熊雄、木澤喜平治、辻口楠司、田中吉治の諸君が青年訓練所生徒の代表として、この光榮に浴せり。

諸君感激措く所を知らず、御親閲場へ出場し、歸團の上前述の感想錄を本團に報告せり。依つてこゝに記載しこの空前絶後の光榮を永久に傳へ、一は弘大なる聖恩を記念し奉り、一は以て國民精神作興の一助たらしめんとす。

團員貯蓄の狀況

大正十二年十二月東宮御成婚記念事業として千早村青年會に於て規約貯金の制定あり。

本團員も二十五歳迄の會員に之を奬勵せし結果義務的に入會せり。會員となる時は毎月五十錢以上必らず貯蓄する規定にして滿期の年の十二月迄とし拂戻は結婚する時に交附し退會するも、結婚せざれば拂戻をなさず。

貯金の利息は年五分とし利子の剩餘金は會の收入となす、通帳は會長の保管するところにして年二回六月、十二月に利息記入の上會員に閲覽せしむ、右の如き規定のもとに極力之を奬勵せる結果、昭和五年度現在に於て總貯蓄高壹千圓に近く預金者四十名なり。

千早村青年會員を除く團員には强制的貯金をなさゞるも、機會ある毎に勤儉貯蓄の念を鼓吹し、今後益〻團員の貯蓄金額の增加を圖らんとす。

將來之施設

一、會館之建設

現在使用中なる會館はもと楠公顯彰會簡易宿泊所として建築されしものなるが、或る事情のもとに村に寄附せるを更に本團に於て借用し、會館として使用中なり。從ひて、坪數は大なるも青年會館としては設備其の他に不備の點少からず、尙集合上にも不便なれば、本團としても之を遺憾とし會館の建設を計畫中なれども內容外觀共に恥かしからざるものを建設せんとせば相當莫大なる費用を要し、本團の會計にて到底之を許さず、ために延期するの已むを得ざることゝなれり。既に基本金の蓄積豫定額は一千圓以上に達したるにより、今後出來得る限り豫算の計上をなし、團員協力して之が實現の早からんことを期する次第なり。

二、圖書館之建設

別揭記述のく會館の一隅に文庫を設置せるも未だ充分ならず、青年修養の向上教育の增進上一日も忽かせにすべからざるのみならず、學生及び一般の人士の讀書慾を滿すにも、一に圖書館の必要あり、會館の建設と共に併置すべく努力せんとす、時代の要求により之が建設を見ざれば已まざるべく、早晚本計畫の具體化亦遠きにあらざるべし。

三、會報及び圖書の發刊

現今各地青年團に於て會報の發行せるを見受けられ共本團は遺憾ながら經費の關係上だこれに指を染むる能はざる狀態なり。

團員は辯論會或は總會等に於て其の抱懷せる意見を發表し來れども、青年の純眞なる意見を吐露するには辯論のみにては不充分たるを免れず、會報の發行は大したる費用も要せざるが故に近き將來に於て之を發行すべく、內容としては團員の文章、詩歌等の發表、現在社會の新事項を青年に傳達せんとする機關とし、所謂田園文學として堅苦しき青年の趣味に投ぜざる程度高きもの、或は複雜なる理解力を要する記事等は避け、居ながらにして修養となり、雅致に富める趣味を養成すべき主旨として發行すべし。尙團史編纂發行を機會に、史蹟に關するもの、修養的のもの、團員の意見、先輩の傳記等を整理し、單行本として圖書の發行をなすべく計畫中なり。

四、運動場の擴張

運動場として現在あるものは場所狹隘にして庭球コートが其の大半を占め、運動競技は千早城趾に於て開催すれども、これも場所狹くグランドとしては不適當なり。

近時運動熱の勃興に伴ひグランドの必要を痛感す、殊に小學校々庭も狹隘にして、各地の競技大會に我が楠學團、小學校生徒共に出場すれども、かつて優秀なる成績を擧ぐるに至らざるは適當のコーチ無きためとは雖も亦グランド無きがため、練習不足にて劣敗に甘んずるの外なきは實に遺憾にたへず。

尙當地は避暑地として適當の地なることはこの地を訪れたる者の直感する事實なり、將來避暑地として又學校生徒の精神修養上最も適當なる史蹟の地なれば必らず林間學校の設置を見るを得べきは識者の等しく認むる所なれば、この際グラ

ンド開設は益ゝ必要缺くべからざるものとなり、篤志家より土地の無償借入をなし、團員の勞力奉仕に依り漸次之が實現を期せんとす。

五、娯樂方面の施設

昭和五年十一月我が團に娯樂部が設立され年一回乃至二回大回を開催する外は娯樂としては盆踊りあるのみなり。青年指導の中心として娯樂は其の大綱の一なり。何となれば娯樂の設備あるが故に集合する青年の心理を利用すべきは現代の青年として未だ必要なる事を痛感す。

具體的方策として第一に會館に各種の樂器を備へ、運動會或は軍人の送迎等に簡易なる樂隊を備ふ事も必要と思惟す。其の他ラヂオ、蓄音器、將棋、碁盤等を會館に設備するは各種の會合の出席率を高むる一因なり。亦活動寫眞機を購入して教育的映畫或は時事的映畫、文藝映畫等を辯論會、總會等の餘興として又一面一般の觀賞に供し公開するも意義ありと信ずるものなり。

六、奬學會

本村の子弟にして秀才なれども學資金無き爲めあたら前途有爲の器を空しく埋むるもの尠からず。本村、亡、町田氏早くも之に着目して私財五千圓を村に提供されしが、其後其の儘となり居るは甚だ遺憾なり。將來青年を指導し村の中堅となりて活躍する有爲の子弟を中學校或は最高學府に送り、以て本村の隆盛發達を圖らざるべからずと痛感するが故に將來好況の時に村有力者及び一般の篤志家の後援を得てより以上奬學金を積立て、秀才の子弟に貸與して高等學府に送り卒業後これ等有爲の人を以て青年團を指導し、村の中堅となれば、その成績頓に向上し發展を見るべきは火を見るより明らかならんと信じ茲に本計畫を立てし所以にして其の實現の一日も早からん事を祈るや切なり。

六、凍豆腐製造模範工場之建設

文化の齎ふ所我が工業も亦駸々乎として時代と共に進歩し、就中食料品製造事業は夫々專門家の化學應用、合理的製造法の研究に依り向上發展を見る事を得るも、獨り凍豆腐製造業に至りては遲々として振はず、依然古來の慣習に拘泥する嫌あり、偶ゝ學者に依りて研究に着手さるものなきにあらずといへ、營業の實際に適合する製造法を發見されず、わずかに製造の分子たる沈澱、凝固劑、漂白劑等の研究に止まるのみと聞く、蓋し確實なる製造法の改良は、多年實地に叩き上げたる技術者と、斯業經營者との協力研究に俟つ所非ざれば到底不可能の事ならん。

何んとなれば、斯業は全國的のものにあらずして、天然凍豆腐製造に適する土地に局限され、然も冬期短日月の事業なれば、學者は連續的徹底的に之が研究を爲し難ければなり。

千早凍豆腐製造の起源及び沿革は古文書なき爲不明なるも、代々これが製造を以て生計を立て、年々改良を加へ品質の向上を圖り、稍ゝ小形なれども、獨特の風味は需要家の間に好評を博し、賣行も頓に增加し、製產數は昭和八年度に於て三萬箱價額參拾萬圓に達せり。然れども、尙經營方法に於て遺憾の點少からず、製造技術に於ても漫然從來の實地研究を基礎とし、不合理的製造法を踏襲し、實地に凍豆腐の製造をなすのみなり。

所謂釜元、夜釜を但馬方面より雇入れる現狀にして、當村に於て自から製法を習得し、進んで研究を積み、斯業發展の爲めに貢獻すべく志す者無きは、實に遺憾なり。

殊に近年は財界不況の影響を受け、經營する工場の業績は、缺損相續ぎ面白からず、加ふるに人口は年々增加し、失業

者の數も漸次增加する有樣なる此の際他地方の人へ多額の賃金を支拂ひ、招聘するが如き不合理を繰返すが如き秋ならんや、青年は目覺め、製造家も目覺め共に〳〵子弟を鞭韃し販賣、製造二つながらその子弟に授くべく、導かれんことを望みてやまず。

工場の經營に就ても原料たる大豆買入方法は如何産業組合の低利資金貸附の便法は開かれたれば、之を活用し大量買入に依る利益尠からざるは論を俟たず、然るに敢て高率の金を使ひてあやしまざるは、慣習とはいへ慨嘆にたへず、そこに種々の事情あらんも、敢然製造家相互の爲めに舊習を打破し、より合理的商法に邁進せざるべからず。

販賣方法に就ても問屋に依りて二重利得を得しめ、需要家に提供する豆腐値段の高きはたゞちに消費に多大の影響を蒙るものなり、販賣方法、即ち消費の如何を見究めずして製造能率の增進を圖るとも、そこに滯貨山をなして値段の下落免れず、一方に操短の聲起り産業合理化が不合理に終る結果を見るにあらざるや。

現代の商業は宣傳の力、所謂廣告の偉大なる効果を見よ、然るに千早豆腐の宣傳に缺けたるところ無きや、新販路を開拓し、消費を大にすれば、操短の如きは吹き飛ばし、大量製造による廉賣をなし、製造家より直接需要家へのスローガンを以て邁進せよ。

當團員の總てはこの業に從事し、將來この事業を繼承するものなれば、こゝに於てこれ等のことを研究する工場を建設し、技術及び經營のあらゆる方面に互り、青年の自力を以てこれに當らしめ、模範的施設の工場として、斷然舊習を打破し、合理的なる經方針を樹立し、斯業發展の爲め全力を傾注すべきなり。

斯業の盛衰は、實に當村の隆盛か否かかに岐る。從ひて、我等の將來の生計を、安定か不安定たらしむるかの分岐點に關する重大なる問題なり。こゝに、本事業を計畫せる所以にして、近き將來に必らずこれが實現を見るや明かなり。

八、農藝品製作及び經營

本村は四季を通じて金剛山、千早城趾其他楠氏の偉蹟至るところ散在するが故に登山者跡をたゝず。偉大なる楠公が偉業を欣慕し、高貴の方々を始め諸名士が陸續登山せられ諸團體の來ること日一日と多くなりぬ。

周圍は山また山にして林産物多くこれを利用し農村の副業として素朴なる農藝の美術品を製作する事を奬勵しつゝあり

大正十五年八月南河內郡農會及び千早村農會の斡旋に依り講師酒井竹山氏を招聘し、竹木彫刻の講習會を二週間開催し本團員のみならず一般希望者が多數來會して講習を受け相當好成績を收め、その製作品を展觀し、好評を博せり。引續き楠公が奮戰の苦を偲ぶ藁人形の講習を受けてこれを即賣し相當の賣上を見たり。

これ等は女、子供にても容易に製作し得るものなれば、これ等の副業を益〻奬勵すると共に製作品を一手に引受けこれを賣却し、或は斡旋し、進んで賣店を經營するは時宜に適したることなりと信ず。もとより副業の奬勵を主たる目的なれば損益を度外視し本團に於て奬勵費を支出しても之を達成すべく計畫中なり。

主として竹木彫刻、藁人形、登山杖、名勝菓子類、竹木箸、杓子、菊水旗、名勝寫眞、高山植物、草花、凍豆腐等となし、品質の向上を圖る爲め、時折品評會を催し、或は製作競技等をなしてこの趣味と實益を兼ねたる副業を大いに宣傳しこの農村不況時代に處して、村民の生計の一助たらしむるは刻下の急務なりといふべし。

昭和五年七月本團員房康英君が千早村青年會代表の一人として藁人形を出品し左の褒狀を受領せり。

褒狀

出品　藁人形　　千早村青年團　房　康英

右ハ第一回青年處女作品展覽會ニ於テ審査ノ結果成績優良ト認ム仍テ之ヲ授與ス

昭和五年七月十四日

大阪府青年處女作品展覽會々長　正四位勳三等　柴田善三郎　會長之印

九、修　路　團

近來各地青年團、或は在鄉軍人分會に於てこの修路團なるものを組織し、道路の修理下水道の清潔等を實施しつゝある事を見聞す。

本村は殊に登山者も多く道路の清掃をなさゞれば來訪者をして第一印象を惡くし不潔の念を抱かしむる故に、本團に於ても修路團なるものを組織し、道路の修理、下水道の清潔、河川の清掃、植物の手入等を實施し一般にこれ等を愛護すべき念を鼓吹するは最も適切なる奉仕事業として計畫中に屬す。尙岐路に完全なる標識を樹てゝ旅行者の便ならしめ、人家所在表を村の入口に掲示して訪問者の便に供する等なすべき將來の施設は多々あれば漸次これを實行せんとす。

十、早　天　修　養　會

この早天修養會は希望社に依つて宣傳され近時各地に於て實施されつゝあり。

早天修養會開催の價値は、いふまでもなく早起き、早寢の習慣をつけ、規律ある起床、曉天清々しき空氣に接觸して心身の清淨となり、修養すべき適宜の課目を定めて之を行へば、最も効果ありと信ず、青年は稍ゝもすれば夜間夜遊びの惡

習あり、從ひて飲食或は面白からぬ遊びを覺え、淫猥なる雜談に夜の更くるまで興ずる等の惡弊を矯正するは、この早天修養會を措きて外にあらずと信ず。何となれば、夜遊びをなせば一定の起床は困難となり、尙翌日の家業の能率に關係するが故に家人の訓戒を受けることになり、知らず知らずの內に早起きの習慣をつくる利益あり、この一事のみにても早天修養會の價値ありといふべし、況んや早天星をいたゞきて起き清き朝の空氣を吸ひ、一定の場所に規律正しく集合して、朝の祈り或は朗詠、或は讀書等をなせば身心の修養如何ばかり効果あるに於てをや。

こゝに於て適當の場所を選定してこの早天修養會を開催せんとする所以なり。（終り）

昭和九年九月一日印刷
昭和九年十月五日發行

非賣品

編輯兼發行者　楠學團史編纂委員部
代表者　仲村好松

印刷者　大阪市東區兩替町二丁目二七
塚原新左衛門

印刷所　大阪市東區兩替町二丁目二七
塚原製版印刷所

不許複製

發行所　大阪府南河內郡千早村大字千早
青年楠學團